

進路指導

Buzzメソッドによるキャリア教育

【取り組みのねらい】

バズ学習《Buzzはざわめきの意》は「グループ」ラーニングとも言われ、一斉学習と個別学習の中間に位置。
教員=目標の共有、生徒=学校で学ぶことは知識理解だけではなく、話し合いをしていける能力などを身につけることが大切。

1 時間

- *必ず時間を区切って実行。終わりは厳守!←時間の使い方の教育でもある。遅刻・提出期限・締め切りなどの重要性。
- *3分ごとの声掛け&助言&進行
3—6—9の法則
3分、6分、9分、と時間を区切っていくと、コミュニケーションが発達しやすい。グループ学習設定は1時間(1コマ:50分)で1回、それも9分が最長。多くて長いとダレる。短いと意見が出ない。とにかく、教員が生徒の実態に合わせて設定。

2 記録

- *ワークシート(記録用紙)の作成。
話し放しでは理解は深まらない。「書く」という作業=手を動かす行為を通じて思考の深化と「聞き取り」の能力を高める。

3 評価

- 評価の実施(①教員・②生徒相互・③自己・④外部=コンクール)
=生徒相互は目に見える形で(付箋の数・挙手・点数・文章など小労力でできるように)
評価の多様を生徒にも予め連絡しておいて徹底。
「評価する責任」も指導しておく
グループそのものを評価するようにする。
メンバー全員が連体責任を負う。→積極的な参加につながる

4 全員参加の工夫

A 教材細分法(分析型)

教材の与え方を工夫する=大きな塊の教材を、グループが協議して分けていく過程を通しての全員参加促進。わざと全員に行き渡らない様に、1グループに1個だけの教材を与え、共同作業せざるを得ないようにする。
大きなケーキを丸ごと与え、どのように切って(分類)、どのように味わうか(分析)。

B 分割担当法(創出型)教材細分法の逆。

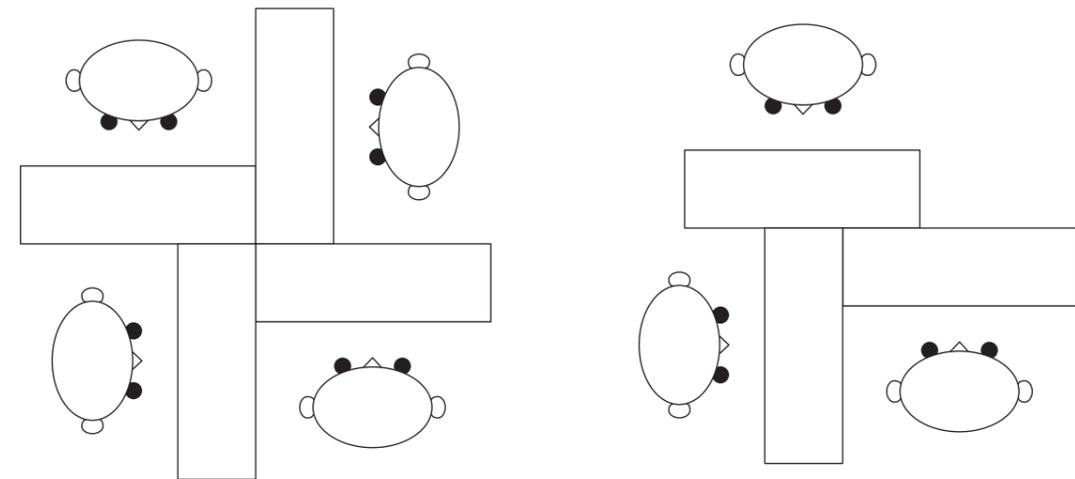
メンバー全員に異なる教材を与え、全てを有機的に組み合わせないと課題が完成しない。
クリーム・イチゴ・スポンジを1人1つずつ与えて、丸ごと1個のケーキを作成する。

5 グループの設定=リーダー格の配置

グループの設定は、能力のあるものを1グループに1人は配置するような配慮が必要。ゼロは100人集まってもゼロである。
学び合い学習などで、教え役が必要ということ。

風車型グループ討論

体を動かして会話+距離の接近



コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

【学習の効果】

NIEを活用する上で、最も有効な方法の一つとしてキャリア教育との連携を挙げることができる。キャリア教育は主に「総合」科目で実施され、職業教育とも言う。地域の企業でインターンシップを行い、勤労観や職業観を養う目的のものだが、このような教科書が存在しない学習にこそ新聞は威力を発揮するのだ。キャリア教育を実施する際、有力な指針となるものが、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」だ。その情報によると、企業が人材を採用する上で最も重視するのは、知識量や理解力ではない。共同作業ができるコミュニケーションアビリティやストレス耐性力、さらに自分で考え行動する能力だという。昨今、共同作業を苦手とする生徒が目に見えて増えているが、学生のうちに己を変えストレスコントロール力を獲得する努力をしないと社会に出てから苦勞する。いや、社会に出られなくなるかもしれないので、生徒へは自覚を促したい。

【指導上の注意】

目標の明確化=どの学力を伸ばさせるか
計画立案=どのような方法で行うか
改善の徹底=失敗をどう改めるか